

佐渡学センターだより

佐渡学センター
(佐渡市教育委員会文化振興室)
2009年2月1日(月)
第1号

ごあいさつ

佐渡学センター 所長 石瀬佳弘

佐渡独特の歴史や文化、多様で豊かな自然などの調査研究と保存活用を目指して、平成19年に「佐渡伝統文化研究所」が設立されました。ここでは、島の内外から貴重な資料や情報の提供をいただき、その活用と情報の発信のためのホームページ充実などに努めてまいりました。しかし、名称が示す通りどうしても歴史・文化に偏りがちだったことは否めませんでした。そこで平成21年からは「佐渡学センター」と名称を変え、歴史・文化と自然を一体的に捉え、調査研究と保存活用にも努めていくことになりました。そして、その活動内容などを「センターだより」第1号としてまとめました。

佐渡は今、多くの課題を抱えながらなかなか解決の方途が見つけられないでいるように思います。このような時こそ、歴史的事実に学ぶことが必要ではないでしょうか。佐渡は、古くから外とつながり、島固有の文化を形成し、貴重な民俗芸能や伝統的行事などを継承してきました。また、多様な地形・地質や植生など、魅力的な自然環境に恵まれています。それに伴って、豊かな海の資源や多様な農産物・林産物があります。先人たちは、歴史や文化、自然と

これらの資源を結びつけ、交流人口を増やし、島を豊にしてきました。その事例の一つを次に紹介してみます。

片野尾の風嶋弁天に芸妓の絵馬が奉納されています。年代は文久3年(1863)、願主は新潟湊 鳥清とあり、新潟市立歴史博物館に調べてもらったところ、「鳥清」は料理屋だということがわかりました。新潟は砂浜で魚があまり獲れないから、かつては佐渡へ買出しに行ったという記録があるから、そのための奉納だろう、と言うことでした。そんな折、『両津町史』の「ドルワール師遺稿」を読んでいたら、次のような記述に出会いました。そこには「之は新潟の魚問屋が夷に魚類を買出しに遣すのである。冬になると新潟近海は波が暴くて漁が出来ぬ。其のために夷湾に漁れた魚類を買入れて市内に供給するのである。」とあります。先の絵馬とこの記述をあわせてみると、新潟湊の海の幸は佐渡が提供していたことがわかります。ちなみにドルワールは、明治11年(1878)に来島して布教を始めたフランス人神父で、この船に乗って新潟に渡ったと記しています。

写真だより



天然記念物及び名勝「佐渡小木海岸」 神子岩



神子岩のピクライト玄武岩

神子岩

日本で唯一ピクライト玄武岩が観察できるといわれている地点です。縦の筋は柱状節理で、貫入したマグマは冷えて固まる時に、貫入した方向と直角方向に割れ目ができたものです。下図のようにこの玄武岩は、肉眼でもカンラン石の大きな結晶がはっきりと見られます。

小木海岸の玄武岩は、日本地質百選にも選ばれており、多くの地質学者や学生が地質調査に訪れております。(池田雄彦)

両津郷土博物館の紹介

佐渡の玄関口、佐渡汽船両津港から車で20分、加茂湖と木々にかこまれてたずむ博物館。それが、両津郷土博物館です。両津郷土博物館は、常設の展示室である第1展示室、第2展示室、第3展示室及び特別展示室で構成されています。

第1展示室では、テーマを「海」にしており、加茂湖と両津湾における漁業の変遷やかつて両津湾で行われていた揚浜塩田を、実際に使われていたものを展示し紹介しています。今では、ほとんど使われることなくなった木舟や漁撈用具をはじめ、漁業に関わったさまざまな資料で、かつての営みを感じていただけることと思います。

第2展示室では、テーマを「くらしと木」にしています。人々の暮らしの中で木や竹はどのように加工利用されてきたのか、割る、曲げる、組む、塗るなどのコーナーを分けわかりやすく展示しています。また、日本一ともいわれる直径3mの味噌桶も見所の一つでしょう。使用されなくなって何十年と経ちますが、いまだに味噌の匂いが香ることもあります。

第3展示室では、島内の「祭」などの伝統芸能や年中行事をテーマとして紹介しています。佐渡は「文化の吹きだまり」といわれており、様々な地方の文化が北前船などにより佐渡へたどり着き、独特の佐渡文化が花開



両津郷土博物館

いた島です。展示している資料には、県の無形民俗文化財に指定されている花笠踊の獅子頭をはじめ、現在でも現役で使用されている資料もあります。

また、第1展示室と第2展示室をつなぐ通路では、佐渡に棲む動物や鳥類の剥製を展示しています。剥製をご覧いただくことで、佐渡の生態系といったものを感じていただければと思います。

特別展示室につきましては、常時公開ではありませんが、鑑賞機会の少ない美術作品や文化財の展示など様々な企画展を開催しております。機会がございましたら、足をお運びいただければ幸いです。

そのほか、海草の標本作りや勾玉作り体験の体験学習などを受け付けておりますので、ご連絡ください。

(須藤洋行)

新収蔵資料紹介

昨年市民・関係者の方々から寄贈や寄託を受けた資料の一部の内容を紹介します。

新佐渡(寄託)

「新佐渡」は、大正4年(1915)9月5日に相川下戸町で創刊された評論雑誌。創刊時は旬刊であったが、発行元の新佐渡社が翌5年11月に河原田本町に移ってから日刊となりました。当時「佐渡新聞」「佐渡毎日新聞」「佐渡日報」「佐渡タイムズ」などが発刊されていましたが、「新佐渡」は一貫して政党色のない不偏不党を堅持し、社会批判と教育・文化の発展、産業の振興を目指す記事と評論を掲載して品格のある紙面づくりに努めたため、多くの読者を得て最盛期には3,200部にも達しました。しかし、紙不足などで新聞の整理統合が進むなか、昭和12年(1937)5月に廃刊しました。

夷6ノ丁区有文書(寄贈)

夷は両津の中心部に位置しています。江戸時代から漁師や商売の町として栄えましたが、昭和3年と同22年の夷大火に見舞われたこともあり、文書記録や古い資料が特に貴重な一帯です。江戸時代中期から戦後までを含む文書資料が中心であり、内容も神社と祭礼、町内の民生、葬祭等の多岐にわたります。

大正初期の絵はがき(寄贈)

最近東京在住の方から寄贈いただいた約30枚の絵はがき。佐渡観光が本格化する以前のもので、保存状態が良好。日蓮や順徳上皇の旧蹟を巡る旅に加え、相川鉦山や海岸線の景勝美を写したものも多く含まれています。失われた自然景観を辿る素材として、また、当時の佐渡観光の歩みを考える上で貴重な資料です。

(野口敏樹)

文化財散歩道 新穂地区潟上牛尾神社

佐渡市内の指定文化財は402件(国指定113件・県指定73件・市指定216件)あります(平成22年1月現在)。これらの指定文化財は所有者の事情や保管管理の観点から非公開であるものもありますが、いつでも気軽に見れるものも多くあり、特に神社仏閣にある指定文化財は公開していたり、建物等が指定文化財であったりするので比較的簡単に見ることができます。佐渡島内には500以上の神社仏閣があり、地域の歴史や文化を象徴し、現在でもお祭りなどの祭礼等で後世に伝える重要な役割をしています。

新穂地区潟上の牛尾神社もその一つで、「八王子宮牛頭天王社」と称していたことから別名「天王さん」とも呼ばれ、縁起では延暦11年(792)に出雲大社より勧請して建立した神社と伝えられています。神社にある指定文化財は「能舞台(県指定)」・「能面翁(県指定)」・「拝殿彫刻(市指定)」・「安産杉(市指定)」・「聖徳太子立像(市指定)」・「薬師如来座像(市指定)」・「龍神及び奉納受領文書(市指定)」と全部で7件あります。残念ながらいつでも見られるのは「能舞台」・「拝殿彫刻」・「安産杉」の3件ですが、それぞれが佐渡を代表する文化財です。

佐渡には独立能舞台が約30棟ありますが、牛尾



牛尾神社薪能

神社能舞台は中でも本格的能舞台といわれる三棟の内の一つであり、能楽の中心となった国仲四ヶ所御能場の一つでもあります。現在の能舞台は明治34年に再建されたもので、現在も毎年6月12日の例祭宵宮で薪能が奉納されています。また拝殿彫刻も明治40年に完成したもので、当時の島内外の名工多数の製作による彫刻群であり、くり堀りによる立体的な彫刻は現代の彫刻家も驚嘆するほど素晴らしいものです。そして安産杉は別名「^{はら}孕み杉」ともいい樹齢は約千年、子授け・安産の杉として現在でも信奉が厚く有名です。神社の階段を登るのが少し大変ですが、ぜひ実物を見てください。

(山口忠明)



牛尾神社安産杉



牛尾神社拝殿彫刻

佐渡学センターのホームページを見るには

- 1 「佐渡市役所HP」→「佐渡市教育委員会」→「文化振興室」→「佐渡の歴史と文化に関するページ」
- 2 「佐渡市役所HP」→「特設サイト 佐渡を世界遺産に」→「佐渡の歴史と文化に関するページ」
- 3 google 検索 キーワード〔佐渡学センター〕→文化振興室のホームページ

※文化振興室のホームページは、佐渡学センターで管理しております。

企画展のご案内

両津郷土博物館と佐渡国小木民俗博物館では、「佐渡郷土芸能写真展～近藤福雄賞写真コンテスト作品展～」を開催いたします。

大正から昭和にかけて佐渡の風景や風俗をガラス乾板に残した故近藤福雄氏。その業績をたたえと共に、氏の志を引き継ぎ写真文化の発展を願い開催された「佐渡国ビエンナーレ近藤福雄賞写真コンテスト」。全5回開催された同コンテストにおいて、四季を通じ佐渡の風俗・風景を映し出した入賞作品の魅力は、今なお色あせることはありません。

この写真展で再び作品の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。大勢の方のお越しをお待ちしております。(宇治美徳)

「佐渡郷土芸能写真展」

日時：平成22年3月1日(月)～31日(水) 午前9時～午後5時まで
※最終31日は、午後4時まで。

会場：両津郷土博物館 2F 特別展室
小木民俗博物館 3年生教室内
内容：佐渡の芸能と文化財

(問) 佐渡学センター
TEL (0259) 23-2100

掲示板

平成21(2009)年に佐渡で刊行された主な出版物

書名・雑誌名、著者・編者名、版元の順です

- ・佐渡のさかな史話、佐藤利夫、佐藤利夫(私家版)
- ・佐渡びとの道中記—山本謙の近代の見聞録—、編者 本間真珠・山本修巳、佐渡郷土文化の会
- ・佐渡びとへの手紙 渡邊湖畔と文人たち 下、渡邊和一郎、渡邊和一郎(私家版)
- ・挑戦 ～仏巖の生涯～、親松東一、親松東一(私家版)
- ・詩集 縄の呪力、本間雅彦、本間雅彦(私家版)
- ・萬葉集雑感、酒井友二、酒井友二(私家版)
- ・佐渡・羽茂 文学碑めぐり ふるさとガイド(13)、羽茂郷土史研究会(文責：藤井三好・写真：中原英夫)、はもちふる里自治会
- ・羽茂萬葉 第五十集 五十周年記念号、羽茂中学校 編、羽茂萬葉編集委員会
- ・新佐渡案内、国際小島嶼文化会議佐渡大会鹿児島大学準備委員会、鹿児島大学多島圏研究センター長嶋研究室
- ・写真で見る俳句集「佐渡」(SADO GOLDEN ISLAND)、土屋雅春(俳句と文)・本間隆治(写真)・山本修巳(監修と文)、(株)マルコアンドマルナ図書出版室
- ・『佐渡観光協会だより』創刊号、佐渡観光協会、佐渡観光協会
- ・『長谷寺だより』第7号、富田宝元(長谷寺)、長谷寺
- ・『佐渡郷土文化』No.119～121、山本修巳、佐渡郷土文化の会
- ・『佐渡地域誌研究』第7号、佐渡地域誌研究会、佐渡地域誌研究会
- ・『島の新聞』第33号～第42号、島の新聞社(長野雅子)、島の新聞社(北見継仁)

佐渡学センターからのお願い —佐渡に関する歴史資料の保存にご協力をお願いします—

家を建て替える際や家財道具の整理の際に出てきた、古い書類や書物などを捨てないでください。

古文書や写真、書籍、手紙、掛け軸、佐渡で発行された戦前・戦後の新聞・雑誌などは、地域の歴史や家の歴史を伝える重要な資料です。これらの資料保存の方法等について、ご相談に応じますので、佐渡学センター(佐渡市教育委員会 文化振興室 文化・学芸係 電話：23-2100)へお問い合わせ下さい。(北見継仁)

編集後記

平成21年4月、佐渡伝統文化研究所から佐渡学センターと名称変更と組織変え、所在地を両津郷土博物館内に移すなど、新たにスタートして10ヶ月経過しました。佐渡学センターの取り組みをみなさま方にご

紹介する形で佐渡学センターだよりを発刊することになり、ここに初刊号をお届けします。このセンターだよりについてのご感想など事務局までお寄せください。(池田雄彦)

発行 佐渡学センター(佐渡市教育委員会 文化振興室)

〒952-0021 新潟県佐渡市秋津1596 両津郷土博物館内 電話 (0259) 23-2100 FAX (0259) 23-4820

ホームページ <http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/>